

会員 各位

公益社団法人日本技術士会 中国本部

本部長 福田 直三

機械/船舶・海洋/航空・宇宙部会長 池田 昌浩

公益社団法人日本技術士会中国本部 機械/船舶・海洋/航空・宇宙部会 主催

2025年度機械部会 第2回講演会（ご案内）【ハイブリッド講演会】**【後援】 一般社団法人 日本機械学会中国四国支部**

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、日本技術士会 中国本部 機械/船舶・海洋/航空・宇宙部会（通称：機械部会）は、2026年2月21日（土）に経済産業省による「ものづくり白書2025」、九州大学 藤本教授による「将来の日本のエネルギーを考える」、高井技術士による金属材料と疲労強度の最新動向についてご講演いただきます。製造業の未来展望と基盤技術の理解を深める貴重な機会です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

参加申し込みは、下記参加申込みURLからお願いします。

【① 割引券・年間パスポートを使用されない技術士会会員で遠隔個人参加用 URL】

<https://www.engineer.or.jp/kaiin/password/cpdevent/cpdeventlist.php>

【② 上記以外の方（一般の方など技術士会会員以外の方、会場参加の方、割引券・年間パスポートを使用される技術士会会員の方）用 URL】

<https://forms.gle/TRQBCW277q5ALuUi7>

敬具

— 記 —

1. 主 催 : (公社)日本技術士会中国本部 機械/船舶・海洋/航空・宇宙部会

2. 日 時 : 2026年2月21日（土） 13:00～16:30

13:00～16:30 【講演会】 （会員・非会員 対象） <Web立ち上げ：12:50>

3. 会 場 : 広島会場：第3ウエノヤビル6階 コンファレンススクエアM+（県支部会場、WEB配信も実施）

4. 内 容 : 演題1「製造業をめぐる現状と今後の方向性～2025年版ものづくり白書から～」

（録画講演60分、質問は後日回答）

講師：経済産業省 中田 萌景氏

演題2「将来の日本のエネルギーを考える」 （講演60分、質疑応答10分）

講師：九州大学大学院工学研究院 エネルギー量子工学部門 藤本 望教授

演題3「金属材料の進歩と疲労強度についての技術史、最新情報と今後の展望（第1回）」

（講演50分、質疑応答10分）

講師：高井技術士事務所 高井 英夫氏

5. 定員、対象、参加費、CPD

(1) 定員 広島会場 30名 鳥取会場 10名 Web配信 250名

(2) 対象 会員、非会員も可（非会員（一般）は会場参加のみ可能）

(3) 参加費 会員：500円 非会員：1,000円 学生；無料（※会場参加の方は会場で徴収します。）

※上記②でWEB参加の方は、「ゆうちょ銀行口座」への振込をお願いします。

口座記号・番号：01330-0-6113／加入者名：公益社団法人日本技術士会中国本部

(4) CPD行事受講証 講演終了時に会場配布します。統括本部URLからお申し込みの会員は各自会員専用マイページからダウンロードしてください。中国本部URL申込者で必要な方にはメールで送付します。

(5) 意見交換会：17:30～ 会場：旬の魚と広島の酒 居酒屋 安さん八丁堀店 参加費：5,000円

<https://www.yassan.co.jp/enkai/index.html>

6. 申込について

(1) 締切り 2026年2月16日（月）（ただし、定員になり次第締切れます。）

(2) FAX、電話での申込・問合せ先

公益社団法人 日本技術士会 中国本部事務局（勝田）

〒730-0017 広島市中区鉄砲町1番20号 第3ウエノヤビル6階

TEL：082-511-0305 FAX：082-511-0309 E-Mail：ipej-hiro@rapid.ocn.ne.jp

(3) **日本技術士会CPD行事参加規則（約款）**をご確認ください。

2025 年度機械部会例会・講演会【ハイブリッド講演会】

参加申込書(2026 年 2 月 21 日)

主催: 公益社団法人日本技術士会中国本部

申込FAX番号: 082-511-0309

※メール送信可能な方は、事務局事務省力化のため、前ページ URL にて申込をお願いします。

(下記に■(または□)ください)

- ・ 標記研修会の参加会場 : (次の会場で参加します)
□広島会場、□鳥取会場、□自宅・勤務先等 (オンライン)

	氏名	資格(注 1)	区分(注 2)
申込者		<input type="checkbox"/> 技術士 <input type="checkbox"/> 修習技術者 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 非会員
技術部門 (注 3) ※複数選択可	□機械 □船舶・海洋 □航空・宇宙 □電気電子 □化学 □繊維 □金属 □資源工学 □建設 □上下水道 □衛生工学 □農業 □森林 □水産 □経営工学 □情報工学 □応用理学 □生物工学 □環境 □原子力・放射線 □総合技術監理		
勤務先			
連絡先	E-mail		<input type="checkbox"/> 会社 <input type="checkbox"/> 自宅
	FAX		<input type="checkbox"/> 会社 <input type="checkbox"/> 自宅
	TEL		<input type="checkbox"/> 会社 <input type="checkbox"/> 自宅

注1) 資格は該当するものに■(または□)を入れる。

注2) 区分で会員とは日本技術士会会員を指し、該当するものに■(または□)を入れる。

注3) 技術部門は技術士か修習技術者のみ、該当するものに■(または□)を入れる。

注4) 連絡先は(会社・自宅)のうち、該当するものに■(または□)を入れ、E-mail 等を記入。

注5) 同行者がいる場合は下記に記入。

注6) この個人情報は、本行事の参加申込み以外には使用しません。

	氏名	資格(注 1)	区分(注 2)
同行者		<input type="checkbox"/> 技術士 <input type="checkbox"/> 修習技術者 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 非会員
		<input type="checkbox"/> 技術士 <input type="checkbox"/> 修習技術者 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 非会員
		<input type="checkbox"/> 技術士 <input type="checkbox"/> 修習技術者 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 非会員

問合せ先 : 〒730-0017 広島市中区鉄砲町 1-20 第 3 ウエノヤビル 6 階

公益社団法人日本技術士会 中国本部

TEL: 082-511-0305 FAX: 082-511-0309 E-mail: ipej-hiro@rapid.ocn.ne.jp

1 広島会場 第3ウエノヤビル6階 コンファレンススクエアM+
広島市中区鉄砲町1番20号 TEL : 082-511-0305 (中国本部事務局)



2 鳥取会場 株式会社エスジーズ 鳥取支店
鳥取市若葉台南1丁目11番地 TEL : 0857-38-6111



アクセス：鳥取駅より南へ車で約20分（※専用駐車場あり）

講演会

詳細内容

【講演会】 13:00~16:30 司会 池本 裕二

・閉会挨拶 中国本部機械/船舶・海洋/航空・宇宙部会長 池田 昌浩 (10分)

・講演I (60分) 録画講演

演題1 「製造業をめぐる現状と今後の方向性～2025年版ものづくり白書から～」

(録画講演 60分、質問は後日回答)

講師：経済産業省

中田 萌景氏

概要：最新のものづくり白書を説明するとともに、当初ご希望賜りました2024年版で紹介した「CX」についても触れる。

・講演II (70分)

演題2 「将来の日本のエネルギーを考える」

(講演 60分、質疑応答 10分)

講師：九州大学大学院工学研究院 エネルギー量子工学部門 藤本 望教授

概要：日本のエネルギーの現状や課題などをテーマに 最近の日本を取り巻くエネルギーに関するトピックスを始め、水素製造で注目されている高温ガス炉など将来的なビジョンについて紹介する。

・講演III (60分)

演題3 「金属材料の進歩と疲労強度についての技術史、最新情報と今後の展望（第1回）

(講演 50分、質疑応答 10分)

講師：高井技術士事務所

(技術士 機械部門) 高井 英夫氏

概要：その昔、1970年代、金属疲労に関しては試験機の制約もあり、疲労試験は大体 10^7 回で打ち止め、その値を疲労限度と称して設計に使用していました。

その後、色々研究が進むと、疲労破壊の要因には大きく分けて、表面状態に依存するもの=切欠き係数、表面粗さなどが支配、と内部欠陥に依存するもの=非金属介在物から進展する亀裂、非金属介在物の大きさ、形状が支配、の2種類があることが判ってきました。

同時に、 10^9 回までの疲労試験が超音波疲労試験機の開発により可能となり、現在も各種データーを積み上げ中です。

今回はこの辺の金属材料の清浄度向上の歴史と、疲労強度研究の進歩を踏まえての将来展望につき考察の結果を述べる。

・閉会挨拶 中国本部機械/船舶・海洋/航空・宇宙部会副部会長 大丸 讓二 (10分)